

病院長

阪越 信雄

Kinan Hospital



年末のあいさつ

令和5年も残りわずかとなりましたが、皆様にはお元気でご活躍のことと思います。

社会を大きく揺るがせた新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、令和5年5月から感染症法上の位置づけが第5類に変更になりました。2020年初頭から約3年半におよぶ長い不安な月日でしたが、当院ではいくつかの部署で業務縮小を余儀なくされたことはあっても、病院全体が危機的状況に陥ることもなく、COVID-19の大波小波を乗り越えてきました。これまでいろいろな形でCOVID-19診療に対応・協力していただいた多くの医師、薬剤師、看護師、医療技術職員、事務職員、全ての病院職員の方々には、この場を借りて改めて深く御礼を申し上げます。

一方で、今後、新しい未知の感染症が流行する可能性は否定できず、有事の際にはまた新しい対策が必要であろうことを多くの医療従事者が理解したところです。国としては、今後6年間の医療計画として、従来の5疾患(がん・脳卒中・心血管疾患・糖尿病・精神疾患)・5事業(救急医療・災害時医療・僻地医療・周産期医療・小児医療)の他に、「新興感染症等の感染拡大時における医療」を6番目の医療事業として加えました。当院としても、地域医療機関や行政と連携を取り、新興感染症への対策を講じつつあります。職員の皆様には、今後ますます奮闘していただく必要もあらうかと思っておりますのでよろしくお願い致します。

病院経営については、COVID-19が蔓延して以来、全国の多くの公立病院で「医業収支は赤字」「総収支は黒字」と報告されるようになりました。COVID-19によって外来患者・入院患者が大きく減少して診療そのものによる収支は赤字になったが、COVID-19空床補償費(いわゆるコロナ補助金)によって病院全体の収支は結果的に黒字になった、という構造です。そんな補助金も今年の10月から大幅に減額され、患者の病院離れとも相まって、今後の病院経営は楽観できるものではありません。平成23年度以降、12期連続で経常黒字を達成している紀南病院においても、今年度以降は厳しい状況に陥ることが予想されます。公立病院は営利組織ではありませんが、大型医療機器の更新を含めた安定的な経営のためには黒字体質を維持することは極めて重要です。頭の痛い問題ではありますが、しっかりと努力して行きたいと思っております。

さて、令和6年の大きな出来事の1つが、2月の「病院機能評価受審」です。当院は平成23年に受審した経験がありますが、今回、再度の受審を決定しました。職員の皆様には準備が大変なご負担をおかけすることになりますが、より質の高い医療サービスを効率的に提供できる病院へとさらに大きく飛躍するチャンスだと捉えたいと思います。職員の皆様のご協力をお願いします。

来年の大きな出来事の2つ目は、当院が紹介受診重点医療機関に認定されたことです。これによって、初診患者については紹介状なしの初診時に徴収していた初診時選定療養費が2100円から7700円になり、再診患者については開業医での診察が適切だと判断された患者が当院での再診を希望した場合に診察毎に3300円徴収できることとなります。外来機能の明確化と開業医との連携を強化することが目的の制度で、病院の外来患者の待ち時間の短縮や勤務医の外来負担の軽減などの効果が見込まれます。一部の患者からは金銭的な負担が大きいとしてクレームが出る可能性もあり、事務方を中心に医師会や地域住民へしっかりアナウンスする必要があります。

令和6年のもう一つの大きな変化は、4月から「医師の働き方改革」が厳格に実施されることです。これによって医師の時間外労働(残業)が厳しく制限されるようになります。今後、医師不足や医療の複雑化等によって医師業務が激増する事態になっても、時間外労働が制限されるため、結果として地域医療に悪影響が生じる状況になるかもしれません。業務内容の見直しや他職種へのタスクシフト等を行い、令和6年度以降も安定した医療を地域に提供できるよう、工夫を凝らす必要があると考えています。

さて、令和6年の干支は辰(たつ)です。動物に当てはめると竜(龍)です。辰は「ふるう」とのうを意味する「振」が語源で、陽気が動いて万物が振動し、草木もよく成長して形が整った状態を示すと解釈されています。来年も我々を取り巻く環境は厳しいと思いますが、辰にあやかっってしっかり成長して行きたいものです。決して竜頭蛇尾(初めは勢いが盛んであるが、終わりは奮わないこと)にはならないことを祈って……。

来年も職員の皆様全員が健やかに生活し、笑顔で年末を迎えることができることを祈念して、私からの年末のご挨拶とさせていただきます。

研修医日記

Kinan Hospital



研修医 高橋 朋宏

初めまして。紀南病院研修医2年目の高橋朋宏と申します。この度サザンクロスにて研修医日記を書く機会を頂きましたので、簡単に自己紹介をさせていただきます。

生まれは兵庫県尼崎市で、小学生の時までは毎日暗くなるまで外で走り回っている元気いっぱいのサッカー少年でした。中学高校は大阪の中高一貫校に進学し、真面目に勉学と部活動に勤しみました。しかし勉強では毎日テストがあり、サッカーでは先輩が22点差で負けているのを目の当たりにするなど、今から思えば人格破綻の高リスクな環境だったと思います。その後、2浪を経てさらに人格破綻の高リスクな大阪大学に入学しました。

ようやく入った大学では、自由な雰囲気の下、時代錯誤なほどに大学の授業に全く出ず、夜中までサッカー部で運動し、アルバイトでは時には大阪梅田のお洒落なカレー屋で紅茶とパフェを作ったり、時には平日昼間から浪人生に数学を教えたりと、これまでの鬱憤を晴らすかのような自由奔放な生活を送りました。そのため当然のごとく出席も勉強量も足りず、2度の留年を経験してしまいました。

2回目の留年の際には、あまりにもやる事が無すぎたため、ニュージーランドで数ヶ月間農業をしていました。方言混じりで早口な英語に全く付いていけず、2歳児や犬と非言語的な関わりを楽しんでいたら、ホストファミリーから将来は小児科医か獣医師になることを勧められたのも良い思い出です。その後は医学の勉強に身が入るようになり、順調に進級を重ね、国家試験を合格し、大学の先輩の縁もあって紀南病院に就職させていただきました。

そんなこんなで人より歳を食ってから働き始めたため、今は勤労の喜びを噛み締めながら勤務しています。謎に夜遅くまで病棟にいて、不審に思われているかもしれませんが、暖かく見守っていただけると幸いです。1年半以上の研修期間が過ぎ、今まで病院の様々な方に熱心かつ丁寧に指導していただいたことが、血肉となっていることを時折感じることができ、日々ありがたく思っています。残りわずかの研修期間も出来る限り多くのことを経験し学び、今後活かせられたらと考えているので、ご指導のほど何卒よろしくお願いいたします。

こんにちは。研修医1年目の石井駿徳(としのり)と申します。研修医が始まって半年が経とうとしており、新天地での生活でも慣れてきました。まだまだ初めましての方も多いため、簡単に自己紹介をさせていただきます。

18年間鹿児島で育ち、男3兄弟の末っ子です。母が産婦人科で、父が脳神経外科ではありましたが、三男ながら周囲、特に母の機嫌をとりながら生活していたら産婦人科志望にまでなっていました。僕だけかと思いましたが、兄2人もまた産婦人科志望であり、父は少し寂しそうながらも、とても応援してくれています。

大学は大阪大学に進学しました。7年間に渡る研鑽に研鑽を重ねて卒業し現在に至ります。高校大学とラグビーをしており、過去にラグビー部の先輩方が研修していたこともあり、紀南病院で研修することを選びました。

大学時代はラグビーをしていましたが、丁度コロナの時期もあって部活動が制限されていた頃、ボディメイクにはまり仕事を始めた今も週4-5くらいはグッドフィットにいて2時間くらい筋トレしています。大会にも出場するレベルまで減量したのは、自分の中でも非常に良い思い出です。全然今の姿とは違いますが、過去の栄光にはめっぼうしがみついたタイプなので、すぐにその時の写真を惜しみなく見せますのでお声掛けください。

そのほか自慢できることといえば、全身麻酔の回数が今までで6回くらいあることくらいです。去年の3月に大学病院で手術した時は麻酔科カンファがちょっと沸いたらしいです。骨折、前十字靭帯断裂、鼻中隔側弯など全てラグビーが原因ですが、生まれ変わってもラグビーをしたいと思うくらいラグビーは好きです。

打たれ強い気質とハードワークで、残りの研修医生活とその先の医師人生を乗り越えていこうと思います。至らぬ点、頭が悪い点など様々ありますが、先生方、看護師の皆様、技師さんの方々、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



研修医 石井 駿徳

医療の現場から

こころの医療センター
外来看護師長 山本 咲良

こころの医療センター外来看護師山本です。こころに異動して8か月が過ぎました。20年ほど前にも精神科勤務は経験していましたが、その頃に比べるといろいろなことが変化していて、精神科看護の大変さが身に染みんでいます。

例えば身体的拘束や個人の尊厳・権利擁護については、一般科よりもっと厳格に基準が設けられ実施されていたり、患者・看護師間の関係性の構築が重要であると同時に、それが患者の病状に大きく影響したりするので、本当に難しいと感じています。皆様にフォローいただきながら、頑張っていこうと思っています。何か私にできることはないものかと思っていたところ、BLS 研修をこころで実施したいというお話を頂きました。紀南病院が現場所に移転してから18年、そのほとんどを集中治療部と救急部で勤務し、現在も ICLS インストラクターとして活動している私が、こころで役に立てる時が来たー！？と喜んだのも束の間、果たして一人で出来るのかと途方に暮れ、師長会で相談させて頂きました。すると、なんという事でしょう(*^▽^*)。「それならば私たちがまず研修を受け、指導者となります」と、こころの師長全員が仰ってくださいました。そこでまず、師長に BLS 研修と指導者研修3回を実施しました。有難いことに杉谷看護部長も参加してくださり、文字通り師長会一丸となって、こころの医療センターBLS 研修の開催準備を行う事が出来ました。一般的なBLS だけではもったいないと思い、こころに配置されているエアウェイスコープを用いての挿管介助も、+αとして計画に入れました。研修参加希望者が少なかったらどうしようかと思っていましたが、指導者を除くこころ看護師61名中43名、約7割の方に受講いただき、うち12名が指導候補者に名乗りを上げてくださいました。本当に素晴らしいことだと感謝しています。急変対応等のシミュレーションを伴う研修は、継続することに意味があります。次年度も継続して開催ができるよう、こころ職員一丸となって頑張っていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

PS:BLS 研修開催に当たり、協力いただいた主任1名スタッフ2名にもこの場を借りてお礼申し上げます。



令和5年9月から11月にかけて田辺市聴覚障害者協会が開催する手話講座を計5回受講しました。約30名の職員が参加し、基本的な挨拶から医療現場で良く使われる簡単な単語などを学びました。



病院のまど

New Face さ〜ん

【 医師 】

①出身地 ②趣味・特技 ③一言アピール(敬称略)



《消化器内科》 津田 郁久

①紀の川市桃山町 ②ボルタリング・スノーボード
③10月から着任しました。これまでの消化器領域の診療、内視鏡検査・治療の経験を生かして頑張りたいと思います。田辺で働くのははじめてになりますので皆様のこと、地域のこと、色々教えていただければありがたいです。よろしくお願いします。



《眼科》 木下 雅貴

①奈良県 ②ドライブ・ゴルフ・テニス
③阪大病院より赴任しました木下と申します。和歌山県に住むのは初めてですが、業務とともにこちらの生活にも早く慣れていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



《こころの医療センター》 船岡 勇佑

①和歌山県 ②野球観戦
③経験不足であり学ぶ事が多くありますが、日々精進していきたいと思っています。

第132回がんサロン「ふれあい」 開催のお知らせ

日時:2024年1月12日(金)14時~16時
場所:2階第5会議室

※感染症の状況によっては中止になる可能性があります。開催状況については、当院2階の掲示板、ホームページにてお知らせしますのでご確認の上、ご参加ください。

編集後記

今年は大変大変暑い夏でした。11月でも全国各地で夏日、最高気温を更新したようですね。

予報ではこの冬も暖かいようで、すごしやすいようにな〜って思いましたが、暖冬の年は低気圧の通過が多く、太平洋側で雨や雪が増えるらしいです。積雪、大雨、凍結等々の怖いことはおこらずいいことどりで春になりますように。

N 記

The advertisement is split into two main sections. The left section features the 'daikoku GROUP' logo and text: '大黒グループが医療の未来を考えます' and '株式会社 大黒'. Below this, it lists the '本社' (Head Office) at 〒640-8525 和歌山市手平 3-8-43 and the '紀南支店' (Kinin Branch) at 〒646-0011 田辺市新庄町 3778-2. The right section features the 'SEIKO MEDICAL' logo with the tagline '医療の先へ。セイコーメディカル株式会社'. It includes a quote: '「生命を守る人の環境づくり」を通じて 地域の実現に貢献することが 私達の使命です。' and a list of branch offices with their addresses and contact information. At the bottom, it mentions 'SHIP HEALTHCARE GROUP' and 'セイコーメディカル株式会社'.